



Title	El Patrañuelo 第15話「Fineaの物語」の系譜とイスパニアとイスパノアメリカにおける「シンベリン」型昔話(AT 882)
Author(s)	三原, 幸久
Citation	Estudios Hispánicos. 1981, 7, p. 125-143
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/97894">https://hdl.handle.net/11094/97894</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# El Patrañuelo 第15話「Finea の物語」の系譜と イスパニアとイスパノアメリカにおける「シンベ リン」型昔話(AT 882)

三原 幸久

## I

16世紀初頭 Valencia に生まれ、1583年9月22日に歿した Juan Timoneda は、黄金世紀前期の有名なイスパニア文学者のひとりである。Timoneda は詩人として、多くのロマンセ集の編集者として、また劇作家としても活躍したが、その名を最も有名にしたのは短編小説の分野である。この分野では、Sobremesa y Alivio de Caminantes (1563), El Buen Aviso y Portacuentos (1564), El Patrañuelo (1567) の3つの物語集を著わしたが、いずれも人びとに歓迎され、Patrañuelo, Sobremesa 共に生前5版を重ねている。その中でも Patrañuelo は16世紀も最も有名な短編小説集として、現代でも Clásicos Castellanos や Clásicos Castalia 等代表的な古典叢書に含められている。この Patrañuelo の第15話(Patraña Quincena)は Finea というイタリア婦人の奇異な運命を扱った興味深い物語である。話は Clásicos Castellanos 版で10頁ほどの短いものであるが、そのあらすじは次の通りである。<sup>(1)</sup>

Candia の富裕な商人 Casiodoro は、商人 Herodiano のひとり娘 Finea と、生涯 Herodiano を扶養するという条件で結婚する。Casiodoro は故郷 Ferrara の取引所で商人仲間の Falacio に妻 Finea の貞潔を自慢しているうちに、言い争いになり、Finea の貞潔さについて100 ducados の賭けをする。Falacio は Candia に来て Finea を誘惑するが、夫の自慢する通り、とても貞潔な女で振り向こうとはしない。ほとんど絶望しかけた時、その家に入りする老婆 Crispina を知り、買収する。Crispina は Finea の髪の毛をといてやりながら背中にほくろがあることを見つけ、そのほくろに生えている毛を切り取り Falacio に渡す。Falacio は Ferrara にも

どり、Finea と枕を共にしたと言ひ、証拠として、寢室の出入口についてのくわしい知識を話し、ほくろの毛を渡して賭けに勝つ。Candia にもどつた Casiodoro は妻をつれて旅に出、無人島に妻をおきざりにし、しゅうとの Casiodoro には妻が病死したと告げるが、病死の証拠をそろえられず、Casiodoro によって告訴される。一方、捨てられた妻は男装し、通りかかった船に助けられてキプロスに着く。港外で暴風に会い、積荷を捨ててかろうじて助かるが、妻は海損の処理に腕をふるって国王の信任を得、国王の秘書兼大蔵大臣に任命される。今は Pedro と名乗つた Finea は、キプロス王の賓客としてたまたま来島した Candia の国王に頼んで Candia にもどり、摂政になる。その權威をもって父親と夫との争いを裁き、夫を牢に入れ、そこで Falacio と Crispina の嘘を知り、Falacio を追放し、Crispina を死刑にする。国王と父と夫の前に、Finea は女の服を着て現われ、身分を明かし、Casiodoro と Finea の夫婦に再び幸福がもどつた。

当時の小説の常として、Timoneda も Patrañuelo の材料の多くを先行文学の中にとっているが、この第15話は明らかに Boccaccio の Decameron の第2日第9話の Ginevra の物語をとり入れたものと考えられる。Decameron の Ginevra の話のあらすじは次の通りである。

Genova の商人 Bernabó はパリの宿で妻 Ginevra の貞潔さを自慢し、Ambrogiuolo と貞潔さについて5千フロリンの賭けをする。Ambrogiuolo は Genova へ行くが、Ginevra の品行は正しく、どうしても誘惑できないので、貧しい女を買収し、木箱の中へ入って寢室に運びこんでもらう。Ginevra の熟睡中に箱より出て室内を観察し、左の乳房にほくろがあり金色の毛が生えていることを見てとり、いくつかの物を盗んで箱にもどる。Bernabó はほくろのことを聞いて妻の不貞を信じ、賭けの金を払って Genova にもどり、下男に妻を殺すよう命じる。下男は妻を哀れと思って殺し得ず、衣服を持ち帰って殺したと偽りの報告をする。妻は男装し、あちこち旅をした後、アレクサンドリアの皇帝の家来となり、警備隊長として Acre の市を警備する。そこで Ambrogiuolo が盗んだ Ginevra の財布と帯を売っているのを見つけ、賭けの事実を知ると、夫の Bernabó を呼びよせ、皇帝の前ですべての真相は明るみに出、Ambrogiuolo は殺され、Bernabó と Ginevra は幸せに祖国へもどる。

16世紀のイスパニア文学の中には、この Patrañuelo ほど直接的ではな

いが、Ginevra の物語にヒントを得た別の作品があることはよく知られている。これは Patrañuelo の第15話の末尾に Timoneda 自身も註記している劇作家 Lope de Rueda (16世紀初頭生, 1565歿) の古典劇 Eufemia である。Eufemia のあらすじは次の通りである。

廷臣の Leonardo は美しく貞節な妹の Eufemia と共に暮らしているが、旅先で貴族 Valiano の秘書として働く。Leonardo が主人の前で妹の貞節さを自慢し、高貴な貴族の妻になり得る女だと言うと、主人は興味を抱き、Eufemia を妻にしたいと思う。Valiano の昔からの家来 Paulo は、新米の Leonardo を主人がかわいがるのを憎み、Eufemia の女中を手なづけて、Eufemia の左肩のほくろに生えた毛を手に入れ、三夜、枕を共にしたと主人に告げ、証拠として毛を見せる。主人は Leonardo を嘘つきとして斬首を命じる。手紙によって兄の危険を知った Eufemia は女中を問いただし、女中が前後のわきまえもなく毛を盗んで外国人に渡したことを告白する。Eufemia は一策を案じ、Valiano に Paulo と寝た夜、Paulo に宝石を盗まれたので、返すよう言ってくれと頼む。Paulo はそれを聞いて驚き、そんな婦人を知らないし、いっしょに寝たこともないと言う。このようにして自分の口から真相の一部を白状し、やがてすべては明らかになる。Valiano は Leonardo を釈放し、家来の Paulo を死刑にした上、Eufemia との結婚を決意する。

ここで見るように Eufemia は妻ではなく妹であり、また貞潔さの賭けもなく、追放されることもない点でかなり自由な改作であり、直接的な翻案とは考えられない。

Decameron の Ginevra の物語はまた Shakespeare に影響を与え、晩年の大作の1つ Cymbeline (1609~1611年執筆) を生み出させた。これは古代ブリテン王国に年代を移し、女主人公イモーゼンの貞潔さについて、夫である騎士ポスチューマスと友人のヤキモーの二人が賭けをする主要なモチーフ以外にも、ローマとブリテン王国の対立や、シンペリン王の後妻である王妃と、継娘イモーゼンの白雪姫的な葛藤といったモチーフも加わり、かなり複雑な筋立てになっている。

次に Decameron の Ginevra についても、口承昔話を採り上げた説、イタリアの古い物語詩からとった説、フランスの古い物語詩からとった説等、いろいろな説があるらしいが、イタリア文学には門外漢である筆者にはど

の説が正鵠を得ているのか知る由もない。ただ、Decameronの源泉研究の古典とされているLeeの研究書中に、年代的に最古のものとしてあげている13世紀のフランスの物語詩、Gilbert de MontreuilのRoman de la Violette ou de Gerard de Neversを紹介しよう。

騎士のGerard de Neversが妻の美しさと貞節を自慢するので、騎士Liziartは必ず誘惑できると言い、二人はお互いに領地を賭ける。Liziartの努力にもかかわらず、とても誘惑できそうにないので、妻の年取ったおもり役を買収し、隣の部屋から壁に小さい穴をあけて中をのぞいて、入浴中の妻の右の乳房の上にあざがあるのを知る。この証拠によってLiziartは賭けに勝ち、Gerardは森に妻を捨てて。妻は通りかかったMetz侯爵に救われる。一方GerardはNeversへ行き、吟遊詩人の服装を身につけてLiziartに近づき、Liziartとおもり役の会話を聞き、妻の無実を知り、妻を捜しに行く。数々の出来事の末、決闘でLiziartを倒し、LiziartはいまわのきわにNeversの妻の無実を告白する。

次にDecameronの源泉ではなく、Decameron以後のこの説話についてみると、何しろこの物語は男女間の貞潔を扱ったもので、ノベラにうってつけの材料であったので、BandelloやSansovinoのノベラを始め、<sup>(2)</sup>イタリア文学やドイツ文学には数多くの文芸作品があるらしいが、筆者には到底近づき得ない分野なので、ぜひ専門家の詳しい御教示を得たい

## II

この「シンベリン」型の物語は、しかしながら、記載文芸の世界のみならず、口承文芸の世界にも広く類話が存在する。世界の昔話の話型索引であるAarne-Thompsonの『昔話の型』<sup>(3)</sup>によれば、第882番The wager on the wife's chastity(妻の貞操についての賭け)として、約300の類話が記され、その分布範囲は欧米と直接その影響を受けた2,3の地域に及んでいる。

今、『昔話の型』の882番の解説によれば、「ある船の船長が貧しい少女と結婚する。1人の商人と妻の貞潔さについて賭けをする。詐術によって商人は姦通の証拠品(指輪)を手に入れる。船長は家を出る。妻は男装して夫のあとを追う。夫婦は再び家にもどり、すべては明らかになる」とあり、この標準型に従うかぎり、13世紀のGerard de Neversの物語からDe-

cameron を通じて Patañuelo にまで至る記載文芸の物語とは幾つかの点で差異があることに気がつく。その第一は、冒頭の結婚の由来であり、なんらかの理由で（多くは航海中の難破の際の神への誓願で）貧しい少女と結婚するモチーフであり、第二は、妻を捨て、または殺そうとするのではなく、夫が家を出て行くという差異である。記載文芸と昔話の A・T の標準型のこれらの差異に留意した上で、範囲をイスパニア語圏に限って、類話を詳しくみてみよう。

『昔話の型』ではイスパニア本国4話、イスパノアメリカ4話の計8話が記されているにすぎないが、筆者の知る範囲内でイスパニア本国9話、イスパノアメリカ21話の計30話が公刊されている。今、イスパニア語圏に伝承されているこの話型の1例として、比較的最近に出版されたチリのチロエ島の類話の全訳を掲げよう。

#### 金のリング

昔、金持ちの騎士がいた。国中で最も貧しい女性と結婚するという誓願をした。あちこち捜しまわったが、自分の思う条件を備えた女性はいなかった。とうとう、とても貧しい年より夫婦の住む農夫の小屋へやって来て、年頃の娘がいるかと尋ねた。老婆は誰もいないと答えたが、騎士が小屋の壁のすき間から中をのぞいてみると、片隅にとても美しい娘が座っていた。再び老婆に話しかけ、あの娘さんに会わせてくれと何度も頼むと、母親である老婆は、娘に着せる着物もないので、外へ出せないのだと答えた。若者は、

「体を覆うために、私のコートを持って行ってください」と言った。老婆はその言葉に従った。その娘はとても美しかったので、若い騎士はすぐさま結婚を申しこんだ。この娘には、髪の毛に7本の緑色の毛があり、右脚にほくろがあった。結婚式の夜に、花婿は金のリングを花嫁に贈った。

数日後、花婿は老人夫婦の家に花嫁を残して、別の土地へ旅に出た。「私は船に乗って旅に出ます。もどって来た時は大砲を打って合図しますからその返事に鉄砲を打って合図してください」

花婿は花嫁を抱きしめて別れを告げ、旅に出た。

しばらく航海した後、ある日、別の町にいる仲間の家に着いた。そして、自分は、貧しいけれどとても誠実な妻と結婚したと語った。

「私とその誠実な奥さんを誘惑できるかどうか、1アロバの銀を賭けようじゃないか。いいかい」

「よし」と若い騎士は答えた。

仲間はサーカスの1団を引きつれて、花嫁の住む町へやって来た。最初の興行に花嫁を招待した。しかし花嫁は招待を受け入れなかった。仲間は花嫁を誘惑できなかったのです、とても悲しんだ。道を歩いていると、1人の老婆に出会った。老婆は、

「お若いの、どこへ行くんだい」と声をかけた。

「仲間との賭けに負けそうなんですよ。そいつの奥さんを誘惑できると言ったんですが、とってもむづかしいんです」

すると、実は魔女だったその老婆は若者に、

「お金をくれるなら、いつでも助けてあげるよ」と言った。

「わかりましたよ」と若い騎士は言った。

「あした、またおいで、本当にあんたが花嫁を自分のものにしたとうまく信じさせるような花嫁の特徴を教えてあげるよ」

次の日、またやって来ると、老婆は花嫁が7本の緑色の髪の毛を持っており、また花嫁の体のどこにほくろがあるかを教え、自分が盗んだ金のリングを若者に興えた。若者は老婆に代金として、銀貨のいっぱい詰まった袋をやった。

数日後、夫が帰って来て上陸すると、仲間の家を訪ねた。仲間は言った。「ねえ、君、私は賭けに勝ったよ。ここに7本の緑の髪の毛があるし、また右脚にほくろがあることも知っているし、私を愛してくれたのでこの金のリングまでくれたんだよ」

若者はこれほどのはっきりした証拠を前にして、仲間の言葉を信じてしまい、賭けのお金を支払った。

しばらくして、若者が自分の家に帰った時、合図の大砲を打たなかった。そして妻を捜しに行った。妻の言い訳を何も聞かず、船につれて行き、夫を裏切ったので、大海の真ん中に投げこむよう命じた。しかし、花嫁は船長に自分は無実だと言ったので、船長は花嫁を海に投げこむ代わりに、男の服を着せて、大洋のまん中にある岩の上に置きざりにした。そこを数人の漁師が通りかかって見つけ、名前を尋ねると、花嫁は自分でファンと名乗り、船が難破したが、助かったのですと答えた。

ある日、(その国の)王女様が町を歩いている、ファンを見つければ、とても

好きになった。そこで、自分の所へあの者をつれて来るように、家来に言いつけた。こうして、ファンは宮殿につれて行かれた。ファンは責任ある職務を与えられた。王女様はファンとの結婚を許してくれと父王に言った。

2人の結婚式の夜、ファンは王女様に自分の物語を語り、自分は男性ではなくて女なのだと言った。たまたま、その話を1人の小姓が聞いており、その小姓は王女に恋をしていたので、早速、王様に、王女様の花婿は男ではなくて女性ですと告げた。

王様は信じようとはしなかった。しかし、小姓の言葉が本当かどうかを知るために、ファンを町へ買物に行かせるよう命じた。王様は考えた。

「もし女なら、女らしい品物を買うであろう。もし男なら、男らしい品物を買うであろう」

男の姿をしていた花婿（ファン）は鉄砲と何箱かの弾丸を買った。王様は買物を検査すると、小姓に、

「お前は嘘つきだ。あの者はやはり男だ。男らしい品物を買ったからだ」と言った。しかし、小姓はなおも女ですと言い張ったので、ファンを農場にやることにした。そうして、農場で最も荒い馬に乗るよう命じた。誰もその荒馬に鞍をおくことさえできなかった。しかし、ファンは鞍をおいて、馬を馴らした。これに反して、小姓はどうか馬に乗ったが、馬が1度跳びはねると、遠くの方に投げ出され、地上をゴロゴロと転がった。これで、王様はなおいっそう小姓の言葉を信じられなくなった。

男の姿をし続けている花婿は、別の地方の副王に任命してくれるよう頼み、聞き届けられた。花婿は王女をつれて出発し、昔住んでいた国へ着いた。

そこに住み着いて1週間ほどたった時、ある老婆の最初の訴えを聞いた。老婆は、自分の娘と結婚した男がきつと娘を殺したに違いない、娘がどこにもいなくなったからと言うのである。そこで副王は夫を召喚し、夫がやって来ると、その告訴状を読み上げた。すると夫は言った。

「私はこの老婆の娘と結婚しました。娘は私に忠実であることを誓いました。しかし、私が仲間と賭けをしたところ、娘は私を裏切りましたので、娘を海に投げこませたのです」

そこで副王は、

「もし妻が生きていて、裏切っていないことが証明されたなら、赦してやるかね」と尋ねると、



「もちろんのことです」と答えた。

「それでは少し待て」と副王は言って、衣服を変え、女の服を着てもどって来た。この町でいちばん美しい女性だったので、夫はその美しさに驚いてしまった。その女性は言った。

「私はあなたの妻です。すべての嘘をたくらんだ者はあの魔女で、あなたの仲間と組んですべてを仕組み、あなたを信じこませたのです」

すぐに魔女を捜し出すよう命じられ、魔女がつれて来られると、真実を白状させられた。夫は妻を心から抱きしめた。すぐにこの事件は王様に報告たれ、王様はこの物語に驚いて、妻を副王の地位にとどめおかれた。そこで、妻は夫と共にいつまでもそこで暮らすことにした。王女は宮殿にもどり、ずっと後に外国の王子と結婚した。

この類話は冒頭の「貧しい女と結婚する誓願」がどういう原因で行われたかのモチーフ（普通は難船の際行われる）が欠けているのと、王様が男装の女主人公に性別をテストを行うモチーフ——通常このモチーフは「女戦士 *La Doncella guerrera*」のロマッセに現われる主要モチーフ——が、少し他の類話と離れているが、他の点ではほゞイスペイン語圏の類話の標準的なモチーフを備えていると言えよう。以上のような *Patrañuelo* とほゞ同じ形を備える類話を仮に亜型Aと名付けるなら、亜型Aに属する類話はイスペイン本国4話、イSPANIAアメリカ20話で、イSPANIA本国内の類話はすべてカタロニア語に属することが特徴的である。今この亜型Aに属する類話を次に列挙してみよう。 \*

—イSPANIA本国—

(1) Joan Amades : *Folklore de Catalunya, Rondallística* (カタロニアの民俗・昔話集), Barcelona, 1950 No. 386 *Els dos patrons* (2人の船持ち) 伝承地 Barcelona 市 2人の船持ちが嵐に会い、いちばん貧しい女と結婚すると神に誓う。1人は貧しい女と結婚する。妻の貞節について相手と賭けをし、相手の船持ちにはせの伯母と名乗る女の助けによって、指輪と刺しゅうしたハンカチを手に入れ、体の秘部にあるほくろを知る。夫は妻に眠り薬を与えてガラスの箱に入れ海に捨てる。妻は漁師に救われ、男装して王に仕える。市長に出世し、夫の町へ来て全ての船主を集め、生涯のできごとを話させる。相手は偽わりの事実を話し、罰を受け、夫婦は幸

福に暮らす。

(2) J. Roure-Torrent: Contos d'Eivissa (イビサ島の昔話), México D. F., 1948 pp. 81~85 El ric que va casar-se amd s'atlota més pobra (いちばん貧しい娘と結婚した金持ちの男) 伝承地 Ibiza 島 難船して、船主が貧しい女と結婚すると誓願。貧しい娘と結婚。妻の誠実さについて、船主仲間を船と積荷を賭ける。仲間は老婆の助けをかり、若妻の太腿のほくろに生えた毛を不貞の証拠にする。夫は棺桶を作り妻を入れて海に捨てる。漁師に救われ、男装して王の宮殿に仕え、出世し、妻殺しの疑いで夫の事件を担当し、事実がわかる。仲間は罰を受ける。

(3) Antoni Ma. Alcover: Apleç de Rondaies Mallorquines (マリオルカ島昔話集), TomX, Palma de Mallorca, 1966 pp. 84-110 Dos patrons i una patrona (2人の船持ちと船持ちの妻) 伝承地 Mallorca 島 Melsion と Gaspar の2人の船持ちは嵐に会い貧しい娘と結婚すると誓願する。Melsion は貧しい娘 Francina María と結婚する。再び出会った2人は女の貞節さについて議論し、千リウラの賭けをする。Gaspar は老婆の助けを借りて指輪を手に入れる。夫は妻を箱に入れ、海に捨てる。妻は船長に助けられ、男装して王に仕え、将軍にまでなり、夫の住む土地に来て事実を知り、Gaspar に賭けの金を返させ夫婦は幸福に暮らす。

(4) 同上 TomX1, Palma de Mallorca, 1968, pp. 96-104 Una al·lota de pèl arreveixinat 伝承地 Mallorca 島 騎士が森の中で出会った貧しい娘 Maria Angela と結婚する。騎士は友人と妻の貞節について賭けをし、友人は魔法の助けで指輪を手に入れる。夫は妻を箱に入れ、海に投げこむ。妻は水夫に助けられ、男装して王に仕え、司令官になる。後に夫の住む土地へ行き、すべてを知り、夫婦は元通りになる。

—イスパノアメリカ—

(5) Riley Aiken: Fifteen Mexican Tales (en: Texas Folklore Society Publications XXX II, Dallas, 1964) pp. 8-12 Candida 伝承地 メキシコ Chihuahua 州 Batopilas 地主の Juan は貧しい娘 Cándida と結婚。友人の地主 Pedro と全財産を賭ける。Pedro は trotaconventos の老婆に頼み、右の太腿にほくろがあるのを知る。夫は妻を山におきざりにする。老婆に助けられる。賭けの相手は死ぬ前に嘘を告白し、全てが明きらかな

り、夫は妻を救い出す。

(6) José Manuel Espinosa : Spanish Folk-Tales from New Mexico, New York, 1937 No. 70 La princesa que fue a la guerra (戦に行った王女) 伝承地 米国 New Mexico 州 Ranchito 弟が王女と結婚して王になる。羨やんだ男が王妃を誘惑できると言っ、二人は王位を賭ける。男は魔法の助けで結婚衣裳を手に入れ、王は賭けに負け、妻を男装させて、銀の箱に入れて海に捨てる。漁師に助けられ、別の王の下で働き、戦いに行つて勝ち、帰つて貧しい夫を見つけ、事情がわかつて、賭けの相手は死刑になる。

(7) George M. Foster : Sierra Popoluca Folklore and Beliefs, Berkeley, 1945 No. 41 The Wager on the wife's chastity 伝承地 メキシコ・Veracruz 州 Sierra Popoluca 族 1人の男が世の中の女をすべて誘惑できると自慢し、もう1人がわしの妻だけは別だと言つて、2人は賭ける。老婆の助けで妻の腰のあざを知る。夫は妻を銃で射ち捕えられる。妻は男装して店に勤めると、店の娘が恋をするが、主人は女と思ひ、娘に男か女かを調べさせる。妻は牢の夫の所へ行き、事情がわかり、相手の男と老婆は殺される。

(8) Elsie Clews Parsons : Zapoteca and Spanish Tales of Mitla, Oaxaca (en : Journal of American Folklore Vo 1. XLV, 1932) No. 13 Mujer honrada (誠実な妻) 伝承地 メキシコ Oaxaca 州 Mitla 靴屋が行商人の妻を誘惑できると言ひ、2人は賭けをする。靴屋は老婆の助けを借りて、妻の背中にはくろがあることを知る。夫は妻を箱に入れ海に投げこみ、捕えられる。妻は水夫に助けられ、男装して裁判所の書記になり、夫の事件を担当して賭けの事実を知り、2人は再び幸福になる。

(9) Elsie Clews Parsons : Taos Tales, New York, 1940, No. 78 伝承地 米国 New Mexico 州 Taos アパッチ族の若者「青い鷹」が酋長の娘と結婚する。妻の貞潔さについて、「赤い鷹」という名の若者と持ち者全部を賭ける。「赤い鷹」は老婆の助けを借り、妻の下腹に金色の毛が生えていることを知る。夫は妻を大きなトランクに入れ川に捨てる。妻は漁師に助けられ、男装して戦士の仲間に入る。戦士仲間は女と疑ひ、交代でこの戦士と寝て性別を調べようとするが、妻は眠らず、相手に手を出させないの、この企ては失敗する。妻は多くの敵を殺し、敵の耳をたくさん持ち帰

り、大功を立てて、自分の村に帰る。夫に会って賭けのことを聞き「赤い鷹」と老婆をつれて来させて真実を白状させる。2人を殺させ、夫婦は元通りに暮らす。全編みごとにインディアンの世界のできごとに改作されている。

(10) 同上 No. 78 variant 伝承地 米国 New Mexico 州 Taos メキシコ人の2人の若者が、妻を誘惑できるかどうかで賭けをする。独身の若者は老婆の助けで、妻のへそに金色の毛が生え、その毛が体を1巻きし、前で赤いリボンを巻いてあることを知る。夫は妻を箱に入れて海に捨てる。妻は漁師に助けられ、男装して、「角のある水蛇」と戦っている王様に仕える。王はその兵士が女ではないかと疑う。妻は蛇を生け捕りにする。蛇は王の所へつれて行かれると、その兵士が女であることを明かす。妻は再び男装して故郷へ帰り、やけになってこじきのようにして暮らしている夫を捜し出して、賭けの事実を知る。相手の若者と老婆を火あぶりにし、夫婦は元通りに暮らす。

(11) Juan B. Rael: Cuentos Españoles de Colorado y de Nuevo Méjico (コロラドとニューメキシコのイスパニア系の昔話) Vol. I Stanford, sin fecha No. 130 Don Flor y Don Calendario (ドン・フローールとドン・カレンドリオ) 伝承地 米国 New Mexico 州 Taos Don Flor は友人の Don Calendario と妻の貞節について賭ける。Calendario は魔女の助けを借りて、妻のへそに金色の長い毛が生えていることを知る。Flor は妻を箱に入れ海に投げこむ。妻は漁師に助けられ、男装して王の下で働く。妻は王に頼んで故郷に支配者として帰り、夫が貧しくなっているのを知り、賭けのことを知る。Calendario に財産を返させ、魔女は火あぶりになる。

(12) 同上 No. 131 Los dos amigos fieles (2人の忠実な友) 伝承地 米国 Colorado 州 Antonio Eduardo は妻の Alcarita の貞節を自慢し、友の Federico は誘惑できると言って賭けをする。Federico は老婆の助けを借り、乳房に長い毛が生えていることを知る。Eduardo は妻を崖から突き落とすが、聖母が助け、後に王の秘書になる。王妃が秘書を好きになるが、妻はそれを拒み、王妃は逆に王に告げ口をするが、口をきく鳥がすべてを明らかにし、Federico と老婆は死刑になる。

(13) 同上 No. 132 Don Luis está borracho (ドン・ルイスは酔っている)

伝承地 米国 Colorado 州 Antonio Don Luis は貧しい娘と結婚し、仲間にその貞節を自慢すると、仲間の1人が、誘惑できると言って賭けをする。仲間は老婆の助けを借りて妻の指輪を盗む。夫は妻をガラスの箱に入れ、海に投げ入れる。妻は漁師に助けられるDon Luis は酒びたりになっているが、妻の両親に尋ねられて、賭けのことを話し、友人も真相を話す。友人と老婆は罰を受け、2人は再び夫婦になる。

(14) Mario Riera Pinilla : Cuentos Folkloricos de Panamá (パナマの昔話), Panamá, 1956 No. 54 No hay mujer honrada (誠実な女はいない) 金持ちの商人が妻の貞節さについて仲間と全財産を賭ける。仲間は老婆の助けを借りて指輪を手に入れる。夫は妻をボートに乗せて海に捨てる。妻は船長に助けられ、男装して知事の秘書になる。後に妻は別の地方の知事になり、酔っぱらっていた夫を見つけ、取り調べ、賭けの事実を知る。相手の男と老婆を呼び出し、賭けの金を返させ、老婆を罰して夫婦は再び幸福に暮らす。

(15) Howard T. Wheeler : Tales from Jalisco, México, Philadelphia, 1943 No. 71 La virtud de una mujer (女の貞節) 伝承地 メキシコ Jalisco 州 Poncitlán 男が友人と妻の貞節について賭けをする。友人は年とった女中の助けをかりて、鍵穴からのぞいて、お尻に大きなほくろがあることを知る。夫は下男に命じて妻を森の中へつれて行き殺させるが、下男は殺せず、鹿の心臓を持ち帰る。妻は善良な妖精に助けられ、妖精の働きによって夫婦は真実を知り、友人は火あぶりになる。

(16) 同上 No. 72 Soplacomales 伝承地 メキシコ Jalisco 州 Guadalajara Andresito の妻が誠実で有名なので、友人の Antonio が誘惑できると言って賭けをする。Antonio は老婆の助けで妻の指輪を手に入れる。夫は妻を井戸に投げこむが、山羊飼いに助けられる。男装して兵士になり成功する。王女は兵士を女と思い試してみるが、男のふりをし続ける。夫を捕えさせ、真実を知る。

(17) Helen Zunsler : A New Mexican Village (en : Journal of American Folklore XLVII, 1935) No. 4 The woman with the golden hair 伝承地 米国 New Mexico 州 Hot Springs 2人の男が妻の貞節について賭ける。相手は老婆の助けを借り、妻の体に金色の毛が生えていることを知る。夫は妻を山に捨てるが、カーウボーイに助けられる。男装して他国へ

行き、兵士になって敵を退け功績を上げる。帰ってみて、夫がかじ屋で酔っているのに出会い、事実を知る。賭けの相手が白状し、老婆は火あぶりになる。

(18) Antonio Cárdenas Tabies : Cuentos Folklóricos de Chiloé (チロエ島の昔話), Santiago de Chile, 1976 pp. 160~164 La manzana de oro (金のリング) 伝承地 チリ Chiloé 島一前掲訳文一

(19) Yolando Pino Saavedra : Cuentos Folklóricos de Chile (チリの昔話) Tomo II Santiago de Chile, 1961, No. 127 La apuesta sobre la castidad de la esposa (妻の貞節さについての賭け) 伝承地 チリ Valdivia 州 Ignao 王子は難船した時、世界一貧しい娘と結婚すると誓う。貧しい娘と結婚し、騎士と妻の貞潔さについて賭けをする。騎士は老婆に 100 ペソを与えて王子の名前入りのハンカチと指輪を盗ませる。王子は妻を棺に入れ、海に捨てる。妻は老人に助けられ、別の王の下で働く。夫の住む隣町の支配者に任命され、赴任すると、夫が妻の失踪のため捕われているのを知り、全てが明るみになる。老婆と騎士は死刑になる。

(20) 同上 No. 128 題名・伝承地 同上 騎士 Manuel は炭焼きの娘と結婚し、妻の貞潔さについて金持ちと賭けをする。金持ちは老婆の助けを借り、指輪、ねまき、ほくろをおおった紅色のリボンを手に入れる。夫は靴屋に妻を殺し、目玉を持ち帰るよう頼む。靴屋は妻の命を助け犬の目玉を持ち帰る。妻は男装して王の下で働く。王子は女でないかと疑い、テストをする。王は妻に宮殿を贈り、その地方の支配者にする。妻は賭けの相手を捜させ、すべては明るみになる。相手に賭けの金を返させ、老婆を死刑にする。

(21) 同上 No. 129 題名・伝承地 同上 Pegro は妻の貞潔さについて弟の Juan と賭けをする。Juan は老婆の助けを借り、妻のへそに生えた金色の毛を手に入れる。Pegro は妻を木箱に入れ海へ投げ捨てる。妻は老人に拾われ、男装し、王の将軍になる。王は将軍が女ではないかと疑い、テストをする。妻は夫を捜し、すべてが明らかになり、弟は金を返す。

(22) 同上 No. 130 La Señora Clara (クララ夫人) 伝承地 同上 夫は友人と妻 Doña Clara の貞節について賭けをする。友人は老婆の助けで指輪を手に入れる。夫は妻を風呂桶に入れて川に捨てる。妻は王子に救われ、男装して王子の友人になる。王子は女かと疑いテストする。最後に妻は副王になり、夫の捕われている町へ行く。夫に会いすべてが明らかになる。

友人は賭けの金を返し、老婆は死刑になる。

②③ 同上 Tomo III, Santiago de Chile, 1963 No. 270 Margarita (マルガリータ) 伝承地 チリ Linares 州 Parral 肖像画に恋をする AT 516 のモチーフが前接。王子はその少女を貧しい小屋で見つけて結婚。若者と妻の貞潔さについて賭けをする。若者は老婆の助けでへそに赤いほくろがあることを知る。王子は家を出ようとするが、妻がついて汽船に隠れて乗るので、島におきざりにする。妻は男装し、船長に救われ、夫が独りで暮らしている所へ行く。夫は妻の楽器と歌から妻だと知り、家にもどる。裁判官の前で老婆のいつわりが明らかになり、老婆と賭けの相手は火あぶりになる。

②④ Susana Chertudi: Cuentos Folkloricos de la Argentina (アルゼンチンの昔話) 1<sup>a</sup> Serie No. 61 Lisandro y Morniones (リサンドロとモルニオネス) 伝承地 アルゼンチン La Rioja 州 Arauco リサンドロは旅に出て美しい少女デルフィナと結婚し、妻の貞節さについて友人のモルニオネスと財産のすべてを賭ける。モルニオネスは老婆の助けを借りて、太股のほくろ、指輪、ハンカチを手に入れる。夫は妻を箱に入れて海へ捨てるが、妻の両親に疑われて夫は牢に入れられる。妻は別の国の王に助けられ、男装して王に仕える。妻は後に国内を視察し、牢の中の夫を尋問して賭けの事実を知り、モルニオネスと老婆を火あぶりにする。

### III

しかしながら、イスパニア本国、特にイスパニア語が話される地域での伝承は、後半部が若干異っていて、Lope de RuedaのEufemiaと同じ形をとる。次にイスパニアのAsturias地方で伝承されていた昔話の全訳を記そう。

#### 銀の靴

昔、ある町に品物を買に行った商人がいた。その町の喫茶店で数人の友人といっしょになった。商人は自分の妻の貞節さをとても自慢すると、友人の1人が言った。

「あなたは何も知らないんですよ。女というものはたやすく誘惑されるものです。私は1週間以内にあなたの奥さんを誘惑できますよ」

2人はたくさんのお金を賭けた。商人はその町に残り、賭けの相手はその賭けに勝てるかどうかを見に出発した。商人の町に着くと、商人の家の

回りをうろつき始めた。3日間通りを行ったり来たりしたが、商人の妻は道に出て来ないばかりか、窓からのぞくことさえしなかった。相手の男は絶望してしまった。この時、そこを1人の老婆が通りかかり、どうしたのかと尋ねた。男は、

「あんたには関係がないよ」と言った。

「誰があなたに役立つかわからないものですよ」と老婆は言った。そこで男は自分のしようとしていることを話した。老婆は商人の妻の家へ隠元豆とバターの入ったかごを持って行き、村の親類からもらったのでと言った。もう暗かったので、妻は老婆に泊って行くように言った。老婆はその家に泊り、妻が寝ている時に寝室へ入って行って、妻の乳房にほくろがあり、そこから三本の長い毛が生えていて、体を1巻きするほど長いということを知った。老婆はまた出て行く時、机の上にあった指輪を盗んだ。

老婆は夜明けと同時にその家を出、指輪を男に渡し、妻の部屋で見た細かいことを話して聞かせた。

男は商人のいる所へ行って、

「この指輪を知っているかね」と言った。

「もちろん、私達の結婚指輪だよ」

「あんたの奥さんは胸にほくろがあり、そこから長い3本の毛が生えていて体を1巻きしていませんか」

「その通りだよ」

「じゃ、賭けは私の勝ですね」

その時、腹を立てた商人はその男をひどく切りつけたので、商人は捕えられ、牢に入れられた。

この事件は商人の妻に知らされ、妻はすぐに銀細工師の所へ行って、片足だけ銀製の靴を作ってくれと注文した。そうして、夫の判決の日、妻は裁判所に現われた。

「今日の裁判で判決を受ける被告の相手の男はどの人ですか」と尋ねると、人びとは、

「あの人です」と教えてくれた。

妻は銀の靴で、その男の顔を殴りつけ、

「この私の部屋へ入った泥棒め、私から盗んだもう片方の靴を返せ」と叫んだ。男は、



「奥さん、何かの間違いでしょう。私はあなたの部屋へ入ったことはありませんよ。あなたの顔さえ今まで見たことはありませんからね」と言った。「それじゃあなたは私の部屋へ入ったこともなく、私の顔も見たことがないと裁判官の前で誓えますか」

「誓いますよ」

「あなたが告訴し、今日判決が下るこの人の妻なのですよ。私は」

そこで、男は裁判官に自分がどのようにしてその賭けに勝ったかを白状し、その男と老婆は捕えられて牢につながれ、商人は釈放され、妻と手を取り合って帰ったそうである。

この例話のように妻自身の機知によって、夫を窮状から救い出す類話を Eufemia 型、または亜型 B と仮に呼ぶなら、この亜型に属する類話はイスパニア本国を中心に次の 6 話が報告されている。

—イスパニア本国—

(1) Aurelio de Llano Roza de Ampudia : Cuentos Asturianos, (アストウリアスの昔話) Madrid, 1925, No. 114 Huérfana (みなし子の娘) 伝承地 Oviedo 州 Colunga 金持ちの紳士がみなし子の娘と結婚する。極道者の紳士と妻の貞節さについて生命を賭ける。相手は 1 人の女の助けを借りて下着の特徴や身につけていた宝石、乳房のほくろ等を知り、賭けに勝つ。夫は殺されることになるが、これを知った妻は国王のもとに現われ、賭けの相手が宝石を盗んだと訴える。相手はこんな女性を見たことがないと誓い、嘘がばれる。

(2) 同書 No. 115 El zapato de plata (銀の靴) 伝承地 Oviedo 州 Teverga —前掲訳文—

(3) Marciano Curiel Merchán : Cuentos Extremeños (エストレマドゥーラの昔話), Madrid, 1944, pp. 220-222 El sol de Sevilla (セビーリアの太陽) 伝承地 Cáceres 州 Trujillo 国王は「セビーリアの太陽」と呼ばれる人前に顔を見せない王妃の貞節について、侯爵と生命を賭ける。侯爵はジプシー女の助けを借り、腕にほくろのあることを知り、結婚指輪を手に入れる。王妃は服の袖を盗んだと言って侯爵を非難し、侯爵はこんな婦人を知らないと言い、嘘が明かるみに出る。

(4) Luis Cortés Vázquez : Cuentos Populares Salmantinos (サラマ

ンカの昔話), Vo 1. I, Salamanca, 1979, No. 80 La zapatilla de oro (金のスリッパ) 伝承地 Salamanca 州 la Alberca 最初に AT 875 D に相当する「賢い少女」のモチーフがある。オスーナ王は他人と口をきかない王妃の貞節さについて大臣と生命を賭ける。大臣は王妃の美容師の助けによって、王妃の頭髮、指輪を手に入れ、右の乳房にそばかすがあることを知る。王妃は王が賭けに負けたことを知り、金の靴を大臣が盗んだと非難し、大臣は王妃を見たことがないと誓って偽りがばれる。

(5) Joan Amades : Folklore de Catalunya, Rondallística, (カタロニアの民俗・昔話集) No. 391 La mánega de plata (銀の袖) 伝承地 Barcelona 市 Pere と Joan の2人が戦から帰りに貧しい炭焼きに出会い、Joan はその娘と結婚する。2人が新妻の貞節さについて生命を賭ける。Pere は下女の老婆の助けで指輪を手に入れる。これを知った妻は片袖のない銀製のジャケットを作り、夫の紋首刑の時に着て行く。そして人に尋ねられると、Pere が片袖を盗んだと言う。Pere はあんな婦人を見たこともないと言い、嘘がばれる。—イスパノアメリカ—

(6) Manual J. Andrade : Folk-lore from the Dominican Republic, New York, 1930, No. 268 La mujer fiel (忠実な妻) 伝承地 ドミニカ共和国 la Vega 2人の男が1人は貞節な女がいると言い、もう1人は世の中に貞節な女はいないと言い、2人は財産と生命を賭ける。女の貞節を信じる男は村々を捜し回っていちばん貧しい娘 María と結婚する。(このところで AT 875 D の「賢い少女」のモチーフあり)。賭けの相手は魔法使いの老婆の助けを借り、María の指輪を手に入れる。夫の遺書を読んだ妻は急いでかけつけ、相手が自分の靴を片方盗んだと非難する。相手はこんな婦人の顔も見たことがないと裁判所で誓い、嘘がばれる。

#### IV

亜型Aに属する諸類話と Decameron—Patrañuelo の文学作品、あるいは亜型Bに属する諸類話と Eufemia は果たしていずれか先で、いずれが後から派生したものであろうか。

民間に伝承されている昔話と同型の物語が古典文学に見いだされ、しかもその記載文芸の作品が有名で国際的に広く翻訳され、多くの人びとに読まれている場合、文学作品が民衆の中に入って昔話として伝承されたもの

か、それとも伝承としてすでに民間にあったものを、たまたま文学者がとり上げて作品にしたものか、しばしば議論されることである。筆者のように民俗学研究に従事している者は後者の立場を取りがちであるが、明白な例外もある。例えば、「赤ずきん」型(AT 333)の世界中に分布する類話の大部分はペローの翻訳を通じて広がったという説には賛成せざるを得ないだろう。

このシンベリン型の昔話についても、文芸作品から由来したものだろうとの推測も可能であるが、昔話の各類話を検討してみると、必ずしも記載文芸作品の引きうつしとは言えず、その上、(1)「世界でいちばん貧しい娘との結婚の誓願」「妻の貞潔さの賭け」「主人公の敵対者を助ける老婆(魔女・alcahueta)」「婦人の男装」「性別試験」「賢い少女との問答」等、民間伝承的なモチーフを多く含んでいること。(2)単にイスパニア語圏だけではなく、他の欧州諸国の民間伝承にも広く分布していること。<sup>(5)</sup> (3)中世物語詩や近世初期のノベラ自身が口頭伝承的な材料を広汎に作品の中に取り入れているのが常であること——以上のような点から見て、この型の物語も、口頭伝承が始めから存在し、文芸作品はそれに基づいて作られたと考えるのが妥当ではなかろうか。

次にA亜型とB亜型との先後関係であるが、一見、A亜型がイスパノアメリカやカタロニア語地域に集中し、B亜型がイスパニア中央部にあることから、周囲論的に考えれば、A亜型よりB亜型の方が新しそうに思えるが、16世紀にすでにEufemiaの劇が存在する以上、この場合に周囲論が適当できるかどうか問題であろう。また、イスパニア語圏に最も近接し、関係の深いポルトガル語圏のこの話型についてみると、筆者の調べ得た5話のうちA亜型3話、B亜型2話とこれまた混在しており、<sup>(6)</sup>あまり参考にはならない。また、16世紀以後イスパニアの文化を受けたフィリピンにも同じ話型の類話が2話報告されている。しかし、いずれも地名人名等からみてイスパニアからの伝来は判然としているが、この2話共にB亜型である。<sup>(7)</sup> はっきり言えることは、16世紀にはすでにA亜型とB亜型の両亜型の類話がイスパニアに併存混在していたということであろう。

〈注〉

- 1) Juan Timoneda: El Patrañuelo (Clásicos Castellanos No. 101), Madrid, Espasa Calpe, 1958 pp. 157~167
- 2) Matteo Bandello の Le Novelle の第21話: Francesco Sansovino の Cento Novelle Scelte の第3日第3話

- 3) Antti Aarne & Stith Thompson: *The Types of the Folktale*, Helsinki, Suomalainen Tiedeakatemia, 1961
- 4) Salamanca 大学の Cortés Vázquez 教授は、本論文のB亜型の第(4)例の解説で、「Espinosa はこの話の類話を採集していない。多分、その文学起源があまりにもはっきりしているからであろう。しかしながら、その起源が文学的なものであれ、口頭伝承的なものであれ、このテーマはイスパニアの昔話の中にあり、アメリカ大陸へも伝播しているのである」と書いている。
- 5) 『昔話の型』に記載の類話数で5話以上の地域をあげるなら、フィンランド28話、リトワニア14話、デンマーク29話、アイルランド81話、フランス6話、ドイツ16話、イタリア10話、チェッコ11話、ギリシア14話、フランス語系アメリカ25話がある。『昔話の型』以後出版の話型目録を見ると、ラトビア75話 (K. Arājs, A. Medne: *Latviešu Pasaku Tipu Radītājs*, Rīga, 1977 pp. 137~138 による)、ロシア・ウクライナ・白ロシア32話 (Л.Г. Барар: *Сравнительный указатель сюжетов восточно-славянская сказка*, Ленинград, 1979 p. 222 による)、ユダヤ5話 (Heda Jason: *Types of Jewish-Orient Oral Tales*, en "Fabula" VII, 1964~1965 p. 174 による) 等がある。
- 6) ポルトガル語圏でA亜型、B亜型に属する類話はそれぞれ次のものである。  
 [A亜型] (1) Teófilo Braga: *Contos Tradicionaes do Povo Português* (ポルトガル民族の昔話), Porto, sin fecha, No. 76 Santa Helena (聖女エレーナ)  
 (2) Sílvio Romero: *Contos Populares do Brasil* (ブラジルの昔話), Rio de Janeiro, 1954, No. 13 O príncipe cornudo (妻に浮気をされた王子)のうちの挿話第2  
 (3) Elsie Clews Parsons: *Folk-lore from the Cape Verde Islands*, Vol. I, Cambridge, 1923, No. 57 O marido cinmento-O rapaz e o cão (嫉妬深い夫一少年と犬)  
 [B亜型] (1) J. Leite de Vasconcellos: *Contos Populares e Lendas* (昔話と伝説), Coimbra, 1966, No. 386 Os fidalgos D. José e D. João (郷士ドン・ジョゼーとドン・ジョアン) (2) Manuel Bráulio da Costa Fontes: *Portuguese Folktales from California*, Los Angeles, 1975, No. 30 A Promesa do Rei (王の約束)  
 なお、次の2類話が本話型に属することは知っていたが、資料を入手できなかった。  
 Ana de Castro Osório: *Histórias Maravilhosas da Tradição Popular Portuguesa* (ポルトガル民間伝承の中の魔法譚), Lisboa, sin fecha, Vol. II, pp. 235-252  
 M. Viegas Guerrero: *Contos Populares Portugueses*, (ポルトガルの昔話), Lisboa, 1955, No. 60
- 7) Dean S. Fansler: *Filipino Populsr Tales*, New York, 1921 の pp. 248~251 "The Golden Lock" と pp. 252~253 の "アルマンソール侯爵" の話。